

るBRICs諸国の株式投信を組み入れる。具体的には「ブラジル株式ファンド」(BNPパリバ)、「ロシア株ファンド」、「ダイナミック・インド株ファンド」(大和投資信託)、「チャイナ龍翔」(大和住銀)それぞれの私募投信を作り、FOFを組成した。信託報酬は $1.77 \pm 0.02\%$ で、販売時のポートフォリオによって変わるが、「ほかのBRICs株式投信が1.9%前後であるのと比較しても低いレベル」(大和投資信託の佐藤直之・商品企画部上席次長)という。

また同投信はFOF内の各投信の組み入れ比

率を「月に1度見直し、相場環境に応じて機動的に変更する」(佐藤氏)ことも特徴だ。各投信の組み入れ比率は、 $25\% \pm 15\%$ と、最大で40%、最小で10%。08年12月現在の組み入れ比率としては中国株式の割合が35%程度、ロシアが15%程度、ブラジル、インドがそれぞれ25%程度となっている。

金融危機下でBRICs株式は大きく値下がりがしているが、「リスクを取ってでもこの機会に懸けたい」という個人投資家ニーズの受け皿となることを期待している。

アブラハム・グループHD、「ゆかしメディア」を立ち上げ

富裕層顧客の資産規模1兆円目指す

富裕層向けメディア、マーケティング支援事業などを手掛けるアブラハム・グループ・ホールディングスは2月2日、富裕層向け情報サイト「YUCASEE MEDIA (ゆかしメディア)」を立ち上げた。同社が運営する富裕層会員限定サイト「YUCASEE (ゆかし)」の1部を一般向けに開放したもの。1月15日からプレオープンとして「ゆかしメディア」を公開していたが、2週間余りで100人の富裕層から、ゆかし会員への登録申請があったという。

同社は2006年11月、1億円以上の金融資産を保有する富裕層会員だけが閲覧することのできる情報サイト「ゆかし」を立ち上げた。富裕層同士のつながりを求める会員に対してネットを通じた情報交換や、パーティーなど交流の場を提供している。会員数は08年7月からの半年で1.5倍となり、会員が保有する金融資産の合計は6400億円規模まで拡大している。

同社の収入としては、富裕層向けに商品を提供したい企業からの広告収入がある。主な広告主はダイムラーベンツ、フランクミュラー、三井不動産などだ。広告収入など、ゆかしを通じたメディア

事業の収入は、08年11月から09年1月までの3か月間を見ると、前年同期比で6倍に拡大している。また同社では富裕層会員基盤を生かして企業のマーケティング支援ビジネスも手掛けている。

08年10月に同社がゆかし会員向けに実施した「富裕層の投資と消費の意欲調査」では、リーマンショック以降、投資マインドが「高まった」と答えた会員は44%、「変わらない」が33%と、8割弱の富裕層の投資意欲が衰えていないことが判明。同社では富裕層顧客基盤を拡大するため、「ゆかし」立ち上げから2年間で蓄積した情報を一般向けにも開放することを決め、「ゆかしメディア」を立ち上げた。

ゆかしメディアは、富裕層向けの注目ニュース、資産運用に成功した富裕層へのインタビュー、不動産やリゾートなど消費に関する情報など3つのコンテンツで構成する。同メディアを閲覧する富裕層は金融資産5000万円から数億円規模を想定している。ゆかしメディアを事前に公開した1月15日からすでに100人を超える富裕層からゆかし会員への登録申請があったが、同社としては「2009年で会員の金融資産規模を1兆円にまで拡大したい」(高岡 壮一郎・代表取締役社長)としている。